

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園関内	種別：保育所
代表者氏名：園長 岩元智絵	定員（利用人数）： 50名
所在地：〒231-0017 神奈川県横浜市中区港町3-14-3	
TEL：045-264-4781	ホームページ： https://www.like-kn.co.jp/academy/establishment/nijiiro/kannai/index.html
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2018年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクアカデミー株式会社	
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員 6名
専門職員	（専門職の名称）
	保育士： 14名 栄養士： 2名
	看護師： 1名 調理師： 2名
施設・設備の概要	（居室数）
	（設備等）
	乳児室1 保育室2 調理室1 調乳室1 沐浴室1 休憩室1 事務室・医務室1
	乳児トイレ2個・立ちトイレ 幼児トイレ3・立ちトイレ2 屋外遊技場（園庭）46.18m ²

③理念・基本方針

こども理念：のびやかに育てだいちの芽
 温かな環境の中で生きていく力を伸ばすように。その子どもたちの心のねっこ（だいちの芽）が伸びやかに育つようにとの理念です。

保育方針：みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛
 木の温もり（物的環境）保育士の温かな関わり（人的環境）家より長くいる場所を温かいまなざしの中で人を人を信じる心を育てる。自己肯定感を大切に、自分のいいところを伸ばしていけるように・・・

信頼関係・情緒の安定・共感しあえる関係性。心の育ちがあって、そのほかの育ちがしっかりと根付いていきます。18歳になった時の支えとなる乳幼児期を法人共有の理念・方針で支えていきます。

④施設・事業所の特徴的な取組

開所時から外国籍の児の多い関内園。「にじいろ保育園」全園共通の理念を大切にしたい保育を行っています。

子どもたちの心のねっこを育てるお手伝いを、願いながらと全職員同じ認識をもって運営するように。空に輝く虹のように子どもたちひとりひとりが育っていくように願いを込めた「にじいろ」保育園名。そして温かな環境の中で生きていく力を伸ばすように。その子どもたちの心のねっこ（だいちの芽）が伸びやかに・・・木の温もり（物的環境）保育士の温かな関わり（人的環境）家より長くいる場所を温かいまなざしの中で人を信

じる心を育てる。自己肯定感を大切に、自分のいいところを伸ばしていけるように・・・。
 子どもたち発信の様々な「芽」を職員も共感していくようにしています。
 子どもが中心であること！やらせる保育でなくあそびからの発展で子ども主体となる
 保育を行っています。運動会・発表会も子どもたちの大好き！な遊び（毎日の保育）の継
 続からの発展として、保護者様と育ちを共有する場となるようにしています。
 保育は、人とモノの環境が大切。生活と遊びの場。子どもの権利・人権を守り、ひとり
 ひとりの育ちに、心の内側に触れるかわりの中できめ細やかに向き合うようにしてい
 ます。コーナーあそびの充実で室内でじっくり取り組む時間を保障。園庭での畑（植栽）、
 運動あそび、今年度は砂場も作りました。散歩ではねらい（子どもたちの興味関心）を
 もって出かけるようにしています。長い廊下もあそび場です。運動会ごっこでは廊下で
 かけっこや綱引きをしました。そうしたそれぞれのあそびは、子ども主体。夕方のひと
 ととき、幼児クラスでは、子ども会議をして思いを言葉で伝え合っています。特に開園3年
 目になっての4・5歳児クラスの興味関心からの発展は、目を見張ることが多く、その
 姿に保育士も共に楽しみあうばかり。大きな事でもなくとも、小さな育ちの積み重ねでだ
 いちの芽を育てている保育園です。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年6月17日（契約日） ～ 2021年3月29日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

- ・ワークにより職員が課題を自分のものとして取り組む仕組みとなっている
 開園当初よりワークと称する園内研修を継続的に行い、理念の共有化・子どもの根っこ
 を大切にする・養護視点を大切にする保育に向けて取り組んでいる。ワーク形式の振り
 返りでは、互いの学び合いや意識の向上となるように、ファシリテーター役を置きなが
 ら、肯定的に認め合う場の中で振り返りを行うようしている。ワークによりすべての職
 員が当事者として共有する仕組みが機能し、保育実践につながられている。
- ・職員との面談を大切にモチベーションの向上に力を入れ取り組んでいる
 職員個別面談を定期的（年2回）に実施しているほか、目標達成に向けた取り組みに対
 し、日常において援助的姿勢で助言・支援を行うよう努めている。その際に園長は、肯
 定的・前向きであることに努めエビデンスに沿って考えられるよう助言することを大切
 にしており、職員のモチベーション向上にむけて力を入れ取り組んでいる。
- ・コロナ禍においても子どもの保育内容、体験は変わらないように取り組んでいる
 子どもが主体的に遊べる環境づくりと関りに力を入れて取り組み、子どもたちの遊びに
 様々な展開、発展が見られており、指導計画に沿った保育を大切に取り組んでいる姿勢
 がうかがえる。園庭の畑でサツマイモを育て、全クラス順番での芋ほり体験に繋げ、運
 動会ごっこ、発表会ごっこの中でも子どもたちからの発信を大切に取り入れている。地
 域情報から得た「キャンドルナイト」という活動も継続して実施されており、子どもた
 ちの育ちの芽を大切に育てている。

◇改善を求められる点

- ・中長期計画と事業計画のリンクを期待したい
 中・長期の事業計画をもとに年度単位の事業計画を策定している。計画書には、指導計
 画の骨子などの事業の方向性を示唆する内容を明示している。単年度計画は年末の職員会

議において園長より方向性が示唆され、各担当ごとに進捗状況を振り返り、課題の整理分析に取り組んでいる。さらに、中長期事業計画書には、それぞれの目標などを明記し分かりやすさに努めることも望まれる。達成、未達成、進捗状況などを状況を分かりやすく記載し、単年度事業計画書とリンクさせることが望まれる。

・職員間の日々の情報共有について課題としている

多くの保育園で抱える課題でもあるが、働き方の多様化もあり、シフトによって担任が登降園時に対応することが難しくなってきたこと、コロナ禍において送迎時も玄関対応であること、などにより保護者への情報共有・提供についてはさらに工夫が必要であると考え、課題としている。保護者アンケートにおいても情報共有を望む意見が聞かれており、少ない意見にも寄り添い、改善できることを考えていきたいとしている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開所三年目、初めての第三者評価でした。コロナ禍且つ再自粛期間とも重なり、園の取り組みを細かく見て頂く事は難しかったのですが、保育園が工夫して取り組んでいる保育内容を理解してくださり良い評価を出して頂いたことは、職員一同励みになりました。今回の受審により、保育園運営やその役割を様々な角度から見直し、課題となることを洗い出させて頂いたこと、見直す機会を得たことは、より良い保育を目指すためのきっかけとなったと考えております。

そして、長期に渡る目線の大切さについても改めて考えさせられました。わかりやすく目標などを明記、より具体的な指標を定め、計画の推進を可視化できるような取り組みを実行し、中長期計画と事業計画がリンクできるようにしていきます。

また、保護者様アンケートのご意見やそれぞれのお気持ちについては全職員で真摯に受け止めさせていただいております。情報共有を望む声に対しても、理解が深めれるような工夫を行い運営に反映させるようにしていこうと思っております。

最後に、保護者の皆さまにはお忙しい中アンケートにご協力いただき、また評価機関の皆さまにはご指導賜りまして本当にありがとうございました。

保育はここまでできれば正解、というものではありません。保育者としての学びに終わりはない、とも考えております。私たちは、日々子どもたちをていねいに見つめ、18歳になったときの心の支えになるように…その心のねっこ(芽)をこれからも大切に育てていきたいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり